



龍野高校では地域の生物多様の保全活動「生物多様性龍高プラン」に取り組んでいます。絶滅危惧種ムラサキの生息域外保全もそのひとつです。

自然科学部や授業「課題研究Ⅱ」田村班の生徒が、種まきや移植、除草をおこない、昨年より開花するようになりました。栽培しているムラサキは2006年にたつの市新宮町で発見された株の子孫ですが、自生株はシカの被害のためか消失しムラサキは兵庫から野生絶滅しました。龍野高校では、兵庫県内ではたつの市にしか自生していない水草ヒシモドキの調査研究もしており、ヒシモドキも絶滅寸前であることがわかりました。ヒシモドキの研究は、本校代表として昨年8月のSSH生徒研究発表会(全国大会)で発表しました。

昨年からの課題研究「赤とんぼ(アキアカネ)の保全」では、アキアカネのヤゴの飼育、および環境教育教材「アキアカネ飼育キット」の開発をめざしています。

神戸新聞 2020年06月06日 土曜日 面名 西播 13 18ページ

絶滅危惧種 「ムラサキ」が開花
龍野高の花壇 生徒ら丹精

希少植物の多年草「ムラサキ」が、龍野高校(たつの市龍野町日山)の花壇で開花した。兵庫県内では野生のもの絶滅したとき、枯れやすく栽培も難しいという。紫色の語源となったが、1センチほどの花びらは真っ白。かれんな姿で風に揺れている。根から染料が作られる。飛鳥時代の冠位十二階などでも高貴な色とされ、古代から珍重されてきた。合成染料の普及で栽培されなくなり、環境省レッドリスト



開花したムラサキの花と育てた田村統教諭(龍野高校)

龍野高では、生物担当の田村統教諭(56)が一昨年に種から育てた。部活動の自然科学部員や、課題研究の授業の生徒らが水やりなどに協力して昨年初めて開花した。 (直江 純)

花。現在は十数株が花を咲かせている。根は漢方薬の材料にもなる。江戸末期の名医華岡青洲が開発した皮膚薬「紫雲膏」もその一つ。田村教諭は「新型コロナウイルスも世界の研究者が治療薬開発を急いでいる。花を見た生徒は、医学の進歩に思いをはせてほしい」と話した。花壇は、一般の見学はできない。(直江 純)

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

令和2年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会

本年度は8月11日(火)に書面及び動画の一次審査があります。一次審査を通過すると8月17日(月)～18日(火)に二次審査があります。二次審査は書面及び動画に加え、質疑応答をオンラインで実施します。最終審査は8月28日(金)オンラインで口頭発表します。総合自然科学科3年生5人が『適材適所な風力発電を求めて～小規模発電～』のテーマで参加します。龍野高校の代表として健闘することを願っています。

課題研究II活動風景(一番左は zoom を使ったオンライン会議中)

